



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月12日

上場会社名 株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 上場取引所 東
コード番号 3652 URL <https://www.dmprof.com>
代表者 (役職名) 代表取締役会長（兼）社長CEO（氏名）山本 達夫
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 吉田 幹夫 TEL 03 (6454) 0450
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	425	—	△121	—	△116	—	△117	—
2026年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	△37.26	—
2026年3月期第1四半期	—	—

- （注）1. 2026年3月期第1四半期は連結業績を開示しておりましたが、2026年3月期第4四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2026年3月期第1四半期の経営成績、対前年同四半期増減率および2027年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。
2. 2027年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2027年3月期第1四半期	3,621	3,149	87.0
2026年3月期	3,831	3,266	85.3

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 3,149百万円 2026年3月期 3,266百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年3月期	—				
2027年3月期（予想）		0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	3,640	49.6	30	—	45	—	30	—	9.54

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	3,152,400株	2026年3月期	3,152,400株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	7,326株	2026年3月期	7,277株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	3,145,101株	2026年3月期1Q	3,145,160株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(セグメント情報等の注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
3. その他	7
(1) 最近における四半期毎の業績の推移	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社は、2026年3月期第4四半期より非連結ベースで業績を開示しており、経営成績の前年同期との比較分析は行っておりません。

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や企業の堅調な設備投資意欲を背景に、緩やかな回復基調を維持しました。一方で、中東情勢の緊迫化に伴う国際エネルギー価格の高止まりや米国の通商政策の影響が続き、内外の景気には下振れリスクが残っています。

半導体市場は、生成AI（人工知能）の普及とAI関連投資により拡大が続いていますが、その牽引役はAIサーバー向けのメモリおよびGPUであり、需要はデータセンターに集中しています。一方、当社が事業を展開するエッジAI領域では、AIの処理がクラウドから機器側へ広がり、IoTや自動運転、ロボティクス向け等の需要拡大が中期的に見込まれます。

とりわけ、AIが物理空間を認識し自律的に判断・行動する「Physical AI」への関心が高まり、製造・物流の現場では自動化・省人化のニーズが顕在化しています。これは当社が創業来培ってきた画像処理技術とAI技術が交わる領域であり、最も重要な事業機会と位置づけています。

このような環境下において、当社は「Making the Image Intelligent」というパーパスのもと、アミューズメント分野の安定した収益基盤およびIPコアライセンス事業のロイヤリティ収入を土台として、エッジAI半導体事業とFA事業という2つの新たな成長エンジンにより、中期的な収益拡大と企業価値向上を目指してまいります。

当第1四半期累計期間は、成長分野への経営資源の集中を進めました。エッジAI半導体「Di1」の開発が一巡した一方、次世代製品の企画、開発・検証基盤の整備および人材の獲得に向けた投資を継続しています。注力分野における取り組みと成果は以下のとおりです。

ロボティクス・セーフティ分野

東京流通センター（東京都大田区）内の「東京ロボティクス・イノベーションセンター（TRIC）」において、ショールームの開設準備を進めました。本ショールームは、当第1四半期累計期間の末日後の7月24日に開所し、自律搬送ロボット（AMR）、自動誘導フォークリフト（AGF）、エッジAIカメラ等のデモ展示や顧客企業・パートナー企業との共同評価・検証の場として活用してまいります。

FA事業においては、AMRメーカー向けにコントローラー、フリートコントロールシステム等のコンポーネントおよび産業用モーター・センサー製品を販売するとともに、具体的な導入検討が進捗しました。

マシンビジョン領域では、資本業務提携先のCambrian Robotics Ltd.のピッキングロボット向けビジョンシステムが認識精度や環境変化へのロバスト性を評価され、商談・納入が進捗しました。また「COMPUTEX TAIPEI 2026」では、Innodisk Corporationのブースにおいて、ケーブルの種別やポート位置をリアルタイムに認識してロボットによる高精度な挿入作業を支援する、データセンターサーバー組立工程向けのデモを展示しました。人手への依存度が高く高精度な作業が求められる組立工程は、電子機器や自動車関連を含む幅広い製造現場に共通する課題であり、こうした領域への応用に向けた拡販活動を強化しています。

このほか、安全運転支援向けの既存プロジェクトからリカーリング収益を獲得するとともに、半導体製造装置向け、安全用途向けにプロフェッショナルサービスを提供しました。

アミューズメント分野

スマートパチスロを含むパチスロやパチンコ向けに画像処理半導体「RS1」の量産出荷を継続しました。前事業年度において減収要因となった保通協（保安通信協会）等による検定試験の適合率は改善の動きがみられ、遊技機メーカーの新機種投入動向を注視しています。引き続き「RS1」のシェア拡大および周辺ビジネスの取り込みにより安定的な収益の確保を図るとともに、次世代製品開発に向けた市場調査および製品企画を進めています。

エッジAI半導体「Di1」

次世代エッジAI半導体「Di1」については量産体制の構築を完了し、監視カメラ、ドローン等の各種アプリケーション市場において拡販活動を推進するとともに、「Di1」開発キット等を出荷しました。特に高成長が期待されるインド市場では、2026年4月に、CCTVメーカーであるSparsh CCTVと「Di1」搭載次世代エッジAI CCTVカメラの開発に向けた基本合意書を締結し、量産を視野に入れた試作開発に着手しました。あわせて、ドローン技術企業であるideaForge Technology Limitedとの戦略的覚書を締結し、「Di1」搭載次世代AIドローンの共同開発および同社製ドローンの日本市場参入を支援することに合意しました。

業績の概況

当第1四半期累計期間の業績につきましては、製品事業において「RS1」の量産出荷を継続するとともに、Cambrianビジョンシステム、FA製品、「Di1」開発キット等を出荷しました。IPコアライセンス事業ではロイヤリティ収入、リカーリング収益およびメンテナンスサポート収入を計上し、プロフェッショナルサービス事業では受託開発サービスの提供により売上高が前年同期を上回りました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は425百万円、営業損失は121百万円、経常損失は116百万円、四半期純損失は117百万円となりました。

当社は、単一セグメントであるためセグメント別の開示はしていませんが、事業別業績の概要は以下のとおりです。

① IPコアライセンス事業

デジタル機器向けAI/GPU IPランニングロイヤリティ収入に加え、ロボティクス・セーフティ分野におけるリカーリング収益およびメンテナンスサポート収入の計上により、売上高は22百万円となりました。

② 製品事業

「RS1」の量産出荷に加えて、Cambrianビジョンシステム、FA製品、「Di1」開発キット等の売上の計上により、売上高は379百万円となりました。

③ プロフェッショナルサービス事業

半導体製造装置向け、安全用途向けの受託開発サービスの提供等により、売上高は23百万円となりました。

また、分野別業績の概要は以下のとおりです。

① ロボティクス・セーフティ分野

主に、Cambrianビジョンシステム、FA製品、「Di1」開発キット等の売上、リカーリング収益および受託開発サービスの売上の計上により、売上高は56百万円となりました。FA事業および受託開発サービスの拡大により、大幅な増収となりました。

② アミューズメント分野

主に、「RS1」の量産出荷売上の計上により、売上高は349百万円となりました。

③ その他分野

主に、デジタル機器向けAI/GPUランニングロイヤリティ収入およびメンテナンスサポート収入の計上により、売上高は19百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は2,491百万円となり、前事業年度末に比べ298百万円減少しました。主な変動要因は、売掛金及び契約資産が168百万円およびその他に含まれる未収消費税等が81百万円減少したことによるものであります。また、固定資産は1,130百万円となり、前事業年度末に比べ89百万円増加しました。主な変動要因は、有形固定資産に含まれる工具器具備品が60百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債および固定負債は合計で472百万円となり、前事業年度末に比べ92百万円減少しました。主な変動要因は、買掛金が211百万円減少、その他に含まれる未払金が114百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は3,149百万円となり、前事業年度末に比べ117百万円減少しました。主な変動要因は、利益剰余金が117百万円減少したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率が87.0%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月15日に公表いたしました2027年3月期の通期業績予想に変更はありません。

当社は、安定収益基盤であるアミューズメント事業の着実な成長を図るとともに、成長領域であるエッジAI半導体事業およびロボティクス・セーフティ事業の拡大に取り組んでまいります。量産案件の積み上げおよび製品ミックスの改善による収益・利益の改善に取り組むと同時に、中期的成長に向けた研究開発や必要人材の積極採用を含む戦略的投資を引き続き推進してまいります。

なお、実際の業績につきましては、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2026年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,797,634	1,782,496
売掛金及び契約資産	475,911	306,995
商品及び製品	65,216	56,848
仕掛品	146	7,048
原材料及び貯蔵品	299,586	255,777
未収還付法人税等	3,611	11,397
その他	147,940	70,679
流動資産合計	2,790,048	2,491,243
固定資産		
有形固定資産	65,269	126,779
無形固定資産	198,485	198,013
投資その他の資産		
投資有価証券	708,170	708,355
その他	69,646	97,465
投資その他の資産合計	777,816	805,820
固定資産合計	1,041,572	1,130,613
資産合計	3,831,620	3,621,857
負債の部		
流動負債		
買掛金	463,775	251,987
受注損失引当金	9,922	8,909
未払法人税等	—	5,237
その他	63,861	178,886
流動負債合計	537,559	445,020
固定負債		
資産除去債務	24,909	25,018
その他	2,345	2,230
固定負債合計	27,254	27,248
負債合計	564,813	472,269
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,838,882	1,838,882
資本剰余金	1,858,093	1,858,093
利益剰余金	△428,063	△545,264
自己株式	△2,106	△2,273
株主資本合計	3,266,806	3,149,438
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	149
評価・換算差額等合計	—	149
純資産合計	3,266,806	3,149,587
負債純資産合計	3,831,620	3,621,857

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	425,429
売上原価	273,834
売上総利益	151,594
販売費及び一般管理費	273,341
営業損失(△)	△121,747
営業外収益	
受取利息	3,100
為替差益	1,558
雑収入	446
営業外収益合計	5,105
経常損失(△)	△116,641
税引前四半期純損失(△)	△116,641
法人税、住民税及び事業税	675
法人税等調整額	△115
法人税等合計	559
四半期純損失(△)	△117,201

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社の事業は、IPコア等の開発・製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

前第1四半期累計期間は四半期連結財務諸表を作成しておりますが、当第1四半期累計期間は個別四半期財務諸表のみを作成しております。そのため、前第1四半期累計期間の記載はしていません。

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	当第1四半期累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	9,035千円

3. その他

(1) 最近における四半期毎の業績の推移

2027年3月期

(単位：千円)

	第1四半期 2026年4月～ 2026年6月	第2四半期 2026年7月～ 2026年9月	第3四半期 2026年10月～ 2026年12月	第4四半期 2027年1月～ 2027年3月
売上高	425,429	—	—	—
売上総利益	151,594	—	—	—
営業損失(△)	△121,747	—	—	—
経常損失(△)	△116,641	—	—	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△116,641	—	—	—
四半期純損失(△)	△117,201	—	—	—
1株当たり四半期純損失(△)	△37.26円	—	—	—
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	3,621,857	—	—	—
純資産	3,149,587	—	—	—
1株当たり純資産	1,001.44円	—	—	—

2026年3月期

(単位：千円)

	第1四半期 2025年4月～ 2025年6月	第2四半期 2025年7月～ 2025年9月	第3四半期 2025年10月～ 2025年12月	第4四半期 2026年1月～ 2026年3月
売上高	402,689	499,932	754,588	775,568
売上総利益	141,954	189,622	278,318	300,228
営業利益又は営業損失(△)	△241,876	△58,030	△99,635	78,405
経常利益又は経常損失(△)	△240,020	△52,534	△94,907	84,310
税引前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△240,020	△72,514	△94,907	77,830
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△240,541	△73,082	△95,406	75,265
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△240,541	△73,082	△95,406	—
四半期包括利益	△241,826	△72,043	△95,406	—
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)	△76.48円	△23.24円	△30.33円	23.93円
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
総資産	3,735,126	3,758,266	3,709,974	3,831,620
純資産	3,369,646	3,297,613	3,202,206	3,266,806
1株当たり純資産	1,071.38円	1,048.47円	1,018.14円	1,038.69円

※2026年3月期第3四半期までは連結業績を開示しておりましたが、第4四半期会計期間より非連結での業績を開示しております。